

病床機能転換概要報告書

1 病院名：社会医療法人壮幸会行田総合病院

2 所在地：埼玉県行田市持田376

3 病床機能転換概要

転換前 病床機能区分	転換病床数		転換 予定年月
	地域包括ケア	回復期リハビリテーション	
急性期	床	33床	2019年12月

<病院全体>

転換前

許可病床数： 504床
 (病床の種別) 一般 450床
 療養 54床
 (病床機能別) 急性期 343床
 地域包括ケア 51床
 回復期リハ 56床
 療養 54床

転換後

許可病床数： 504床
 (病床の種別) 一般 450床
 療養 54床
 (病床機能別) 急性期 310床
 地域包括ケア 51床
 回復期リハ 89床
 療養 54床

4 提供する医療の内容

【転換前】

急性期として一般内科、整形外科患者の入院を受入れていました。

【転換後】

一般内科、整形外科患者は他急性期病棟で受入れることとし、33床を回復期リハビリテーション病棟に機能転換して、院内転棟だけでなく他急性期医療機関からの回復期受け入れを行います。

○地域医療を支えていくために圏域で果たす役割、機能

当院は、今までも急性期から回復期、慢性期までの医療を提供しています。今後も、これら機能を提供し、急性期のみならず、在宅での生活を考えた回復期を経て、かかりつけ医となる医療機関または施設への逆紹介に取り組みます。

○新たに担う役割

高齢化にともない自院急性期からも回復期リハビリテーションの提供が必要な患者様が増加していますが、高度急性期・急性期治療のために医療圏から流出した患者様が在宅へ帰る前の回復期リハビリテーションの提供を他医療機関から依頼されることも増加しております。当院はそれらに対応するため、365日のリハビリ実施を行うとともに平均在院日数は全国平均約70日のところ約45日として運用しています。それでも他医療機関からの受入れ調整に時間を要してしまうのが現状ですので、この機能転換によりスムーズに受入れできるような体制を提供します。

○将来の方向性

今後も地域のニーズに対応しながら病院機能を提供していきたいと考えます。

5 転換後の見込み

届出予定基本診療料施設基準 回復期リハビリテーション入院料5	算定開始予定年月 2019年12月
患者の受入見込み (※名称、数値(人数、病床数に占める割合)について具体的に記入してください。)	
【転換前】 (現在の回復期リハビリテーション病棟56床実績) 他医療機関から年間 26人(7%) 自院から年間 340人(93%)	【転換後】 (転換後回復期リハビリテーション病棟89床見込) 他医療機関から年間 100人(19%) 自院から年間 420人(81%)
医療(介護)連携見込み (※具体的に記入してください。)	
【転換前】 ○紹介元:(主たるところ) 埼玉医科大学総合医療センター 埼玉医科大学国際医療センター 関東脳神経外科病院	【転換後】 ○紹介元:(主たるところ) 埼玉医科大学総合医療センター 埼玉医科大学国際医療センター 関東脳神経外科病院 深谷赤十字病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター

※届出予定基本診療料施設基準は「地域包括ケア病棟入院料1」「地域包括ケア入院医療管理料1」等該当するものを記載。

6 医療従事者

職種	転換前の人員（人）	転換後の予定人員（人）
	常勤 （常勤換算数）	常勤 （常勤換算数）
医師	53.8	53.8
看護師	317.6	317.6
准看護師	31.3	31.3
看護補助者	42.4	42.4
理学療法士	88	88
作業療法士	10	10
言語聴覚士	8	8
社会福祉士	8	8

7 主な病院内施設・設備

転換前	転換後
<ul style="list-style-type: none"> ・病室4床室 7室(急性期一般入院料1) ・病室2床室 1室(急性期一般入院料1) ・病室1床室 3室(急性期一般入院料1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・病室4床室 7室 (回復期リハビリテーション入院料5) ・病室2床室 1室 (回復期リハビリテーション入院料5) ・病室1床室 3室 (回復期リハビリテーション入院料5)

(※増減が生じる施設・設備は、アンダーライン等でわかるよう記載してください。)

8 医療（介護）連携における課題、問題点

- 連携医療機関により当院の回復期リハビリテーション病床を的確に活用していただけるよう、稼働状況などの情報提供を行うように努めます。